

# ヤサキの「連作障害改善法」

## 土作り

### ① 土壌PHの確認

作物に応じた適切なPH調整をする

酸性 PH4.0	PH5.0	PH6.0	中性 PH7.0	アルカリ性 PH8.0
ニシユカ デジマ 茶 ブルーベリー ヨウソ バゴニア	スイウ イチゴ ニンジン ナス ダイコン シュンギク メクイン カサネ ユリネ タマシキ ライムギ ソバ ショウガ ニンニク ラッキョウ	キャベツ カリフラワー トマト アスパラ エンドウ カサネ トウモロコシ ハクサイ レタス メロン カ カーネーション ユリ パイン	ホレンソウ エンドウ テンサイ サトウキビ アルファルファ ガーベラ カスミソウ スイピー ブドウ	

**PHを上げる**

1) 苦土石灰 2~4 俵程度 / 反  
2) BMヨーリン 2~4 俵程度 / 反  
上記全種類投入 時期：作付前 20~30 日前  
(地力が無く応急で使用する場合)  
3) 石灰窒素 2~3 俵程度 / 反  
時期：作付前 10~20 日  
期間をあげ雨に打たせる

**PHを下げる**

1) 硫酸石灰(粉) 5 俵程度 / 反  
2) 過磷酸石灰 3~5 俵程度 / 反  
3) 硫酸 3~5 俵程度 / 反  
時期：作付前 1~2 週間前  
1)~3) のどれか 1 種選択投入

品種によって異なる場合があるので確認すること。

### ② 土壌状況と耕耘の確認

ふわっとした団粒構造の土づくりを目指して

排水性の悪い土壌では土壌障害が発生しやすい。

団粒に耕す原則は適度な乾燥状態の時に耕耘し、雨天はなるべく避けるようにする。

雨天、多湿時に耕すと土が練られ、硬くなって団粒を破壊し、排水不良や生育不良になる。また極度の乾燥時に耕すと細かくなりすぎて団粒構造を壊し、粘土質に土が固まってしまう。

### ③ 堆肥の施用

未成熟堆肥を避け完熟堆肥を使用する

菌の汁  
菌黒 ◎「菌の汁」連作障害ブロックダブルを使用する

堆肥投入時、反当り100kgを土壌混和する。  
右記作業後、1~2週間程度放置し土壌を団粒化させる。

### 定植後から収穫まで

菌の汁  
菌黒 ◎「菌の汁」を使用する

播種・定植後は作物の状態を見ながら月に1~2回程度500~1000倍希釈液を散布又は灌水する。  
収穫前日まで使用しても問題ない。

反当り原液600~3000ミリリットルが十分に行き渡るように希釈水を調整する。

## 水稲での効かせ方

目的：菌の黒汁を水稲で使用する目的は  
有機物（稲わら）の急速な腐植、地力の向上、活着根張り促進、生長促進、土壌腐敗防止、イモチ病の軽減そして収量増。

### 本田代掻き時

使用方法：代掻きの水入れ時に、水口より反当り1リットルを投入。

### 田植え後

使用方法：水口より反当り1リットルを投入。

使用時期：田植え後40~50日と80~90日頃の2回施用。

除草剤及び農薬使用時には7日程度あけて使用する。  
殺菌剤との混用は不可。

### 堆肥作り

### 完熟堆肥を早く作る事ができる

菌の汁  
菌黒 ◎「菌の汁」を使用する

原料1トンに対し500倍希釈液を水分量が60%になるように灌水し、よく攪拌する。

5~7日に1回、合計4~5回の切り返しを行う。困い等で発酵熱が逃げないようにする。発酵温度は70度近くまで上昇。

発酵中は乾燥しやすいので、菌の黒汁500倍希釈液を灌水する。  
30~45日程度で完熟堆肥が完成。

切り返し時に常に水分量が60%前後になるように500倍希釈液の灌水で調整すること。

### 光合成細菌とは

自然界に存在し、動植物に対して毒性がなく、植物の成長を助け、土壌の有用微生物の増殖を助ける微生物。また拮抗作用で有害菌の増殖を抑制し連作障害の防止が期待できる。

【特性】  
有機物の急速な分解。窒素・炭酸ガスの固定と放出。硫化水素の分解除去等。

【期待できる効果】  
土壌障害の改善及び抑制、塩類集積土壌の改善、窒素過剰障害の除去、団粒構造の促進。それに伴う発根・活着促進、作物の品質向上等。